

スマートけいはんなプロジェクト実行計画（けいはんな学研都市）

多様な交通手段とその先にある目的との一体性を高めることでサービスの付加価値を向上し、地域の活性化を図る

目標

- ・AIデバイス利用登録世帯 全世帯の10%
 - ・地域健康ポイントの利用世帯 高齢者世帯の3%
 - ・マイカーでの通勤率40%（現在）→35% ・買物利用率 81%（現在）→70%
 - ・CO₂排出量 -327t/年
- ※定量目標については、今後取得していくデータ等に基づき設定、改善していく予定

取組概要

データプラットフォーム（学研都市型MaaS・α）のもと、モビリティを中心とした多様なサービスを提供し、外出機会の創出

データプラットフォーム （学研都市型MaaS・α）

ユーザー情報 移動 健康 購買 運行 気象 イベント …

モビリティサービス

- ・モビリティハブの整備
- ・ラストワンマイルモビリティ
- ・GPS搭載シェアサイクル
- ・脈拍等バイタルデータを解析するコネクテッドカー



健康医療

- ・AIデバイスによる健康管理支援

エネルギー

- ・電柱吊り宅配ボックスによる物流効率化

可視化

- ・デジタルツインによる複数施策の可視化

体制

事務局

京都府、NTT西日本

行政等

- ・木津川市
- ・精華町
- ・(株)けいはんな
- ・関西文化学術研究都市推進機構

商業

- ・木津川市商工会
- ・精華町商工会
- ・(株)けいはんな

事業参加者

オーシャンブルースマート、関西学研都市交通、関西電力、京阪バス、タツソー・システムズ、シスコシステムズ、国際電気通信基礎技術研究所、島津製作所、双日、奈良交通、日新電機、日本テレネット、WILLER、京都スマートシティ推進協議会

将来像

連節バス（幹線交通）



ラストワンマイルモビリティ



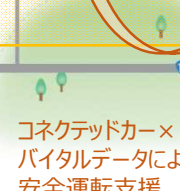
外出機会の創出・ にぎわいの創出



物流効率化



緊急時の 電源確保



運動能力・移動距離に応じた 外出支援



見守り・外出 支援



AIデバイスによる健康サポート

スケジュール

2022年以降順次実装



シェアサイクル



コネクテッドカー×バイタルデータ

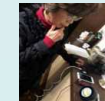


ラストワンマイルモビリティ



電柱吊り宅配ボックス

2023年以降順次実装



AIデバイスによるライフサポート



デジタルツイン